

公益社団法人 北海道臨床工学技士会ニュース

HACE

No.145

ホームページ <http://hcea.umin.ac.jp>

事務局へのお問い合わせは上記 Homepage お問い合わせフォームより

発行人:大宮 裕樹

〒062-0931

北海道札幌市豊平区平岸1条6丁目 3-40

KKR 札幌医療センター

診療技術部 臨床工学科

TEL 011-822-1811

年頭所感 2019

年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと全国で地震や台風が発生したなか、北海道でも9月6日に北海道胆振東部地震が発生し全道で継続した停電の被害を受けることになりました。自家発電により診療を継続した施設も多数あり、水と電気を必要とする透析の施設では全道で切迫した状況での対応を迫られたと思います。災害時の情報共有として当会のメーリングリストを利用して施設情報を募り情報収集に努めましたが、道内すべての施設が被災した状況のなか、多忙の中情報提供にご協力いただきました施設にはお礼申し上げます。今後は災害対策マニュアルによる災害時の当会対応を検討しております。マニュアル運用時には皆様のご協力が必要となりますのでよろしくお願い致します。

予てから、お伝えしています支部制導入についてですが、いよいよ導入予定の2020年が来年となりました。1988年の団体設立より現在1200名を超える会員を有する団体となり、北海道で従事する臨床工学技士がまとまり、道内全域に当会事業を浸透させ理解していただくために支部制の導入を進めております。各支部での事業遂行のためにはより多くの会員の皆様のご協力が必要となりますのでよろしくお願い致します。本年の第30回北海道臨床工学会は、11月30日より2日間開催の記念大会として催す予定ですので多数のご参加と演題登録をお待ちしております。

今後の事業としては、手術室業務指針(仮名)の作成、WEB上でのカンファレンス、災害対策マニュアル運用開始など、新たな取り組みによる当会の発展と皆様への事業提供を計画しております。

そして、当会が職能団体として今後も発展できるよう、未来の臨床工学技士が安心して従事できるように、継続した努力と、これまでの積み重ねを重んじ執行部一同最大限尽力する所存ですので、皆様にはご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

おわりに、本年が皆様にとって実り多い年になることを、心より祈念いたします。

平成31年1月1日

公益社団法人 北海道臨床工学技士会会長 大宮裕樹

公益社団法人 北海道臨床工学技士会ニュース—目次—No.145

年頭所感 2019	1
第13回医療安全セミナー開催	2
第19回北海道透析技術談話会開催	2
アフレスリス血液浄化技術セミナー2018 開催	3
多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会開催	4
RM ニュース	5
2月からの予定表	6
訃報	6
危機管理委員会よりお知らせ	7
医療事故情報収集等事業医療安全情報	8
頑張れ! フレッシュヤーズ	9
学会誌電子ジャーナル無料閲覧サービスのご案内	10

第13回医療安全セミナー開催

2018年10月28日(日)KKR札幌医療センターにおいて第13回医療安全セミナーが開催されました。今回は「医療現場のモニタリングを活用しよう!」というテーマで、医師、臨床工学技士、メーカーの分野から講師をお招きし、ICU・手術室、NICU、一般病棟におけるモニタリングについてそれぞれの視点からご講演していただきました。

PHILIPS ヘルスシステムズの三浦峻先生からは、主にICUでの心電図モニタに関するアラームマネジメント、患者以外の要因で発生するテクニカルアラームを適切に設定・管理する事で、致死的不整脈など迅速に対応できる環境づくりが大切であるというお話をいただきました。

札幌医科大学 医学部麻酔科学講座 助教の吉川裕介先生からは、非観血的血压測定(NIBP)と観血的血压測定(ABP)で得られる血压の値をどのように扱うべきか、その測定原理や測定精度、値に影響を与える様々な要因についてご講演していただきました。日常、当たり前のように扱っている血压値が案外不確定要素を多く含んでおり、一概に数値だけで判断してはいけないのだと改めて感じました。

手稲溪仁会病院 麻酔科部長 横山健先生からは「いまどきの循環モニタリング」と題して、麻酔科医からの視点でどのように各モニタリングを見ているか、心機能に関するモニタリングとその考え方について深い内容までご講演していただきました。

旭川医科大学病院 診療技術部 臨床工学技術部門 技士長の宗万孝次先生からは、人工呼吸器のグラフィックモニター波形からわかる事について様々な症例を提示しながら、分かり易くご講演していただきました。臨床工学技士が強みを発揮できる分野であると思いました。

日本光電株式会社の木村拓先生からは、メーカーがデバイスを開発する際の工夫や仕組みにつ



会場風景

いて、新生児のモニタリング機器に注目しご講演していただきました。メーカーが現場の意見を取り入れてデバイスを開発・改良していき、その結果患者にとって良い製品が提供出来る事は大切なプロセスであると感じました。

フクダ電子 北海道販売株式会社の川島洋先生からは、一般病棟での心電図モニタでテクニカルアラームを減らすために取り組む事、基本的な心電図モニタ波形の見方についてご講演していただきました。

合計で6人の先生にご講演していただきましたが、学ぶことが多いセミナーとなっていました。セミナーを通じ医療安全について、初めて知る知識や改めて考え直すきっかけを得るという意味で有意義であり、会員の皆様のみならず他の医療職の皆様にもお勧めできる内容となっていたと思いました。今後も開催されるセミナーに、他職種の皆様が参加されることで、より一層安全な医療を提供することにつながるのではないかと思います。

ご多忙の中、ご講演頂いた先生方、参加された皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

広報 東

第19回北海道透析技術談話会開催

2018年10月21日(日)に北海道大学学術交流会館にて、第19回北海道透析技術談話会が北海道臨床工学技士会と共催で開催されました。



会場風景

当日は、秋晴れの快晴で久しぶりの暖かい日となり、会場には2階講堂を埋める、約180名の参加者が訪れ、活気のある会となりました。

はじめに、北海道透析技術談話会の代表世話人大澤貞利氏（釧路泌尿器科クリニック 副院長）から、「来年は20回目を迎える北海道透析技術談話会に関して、より臨床への情報提供をできるように企画したい」とあいさつがあり、継続して北海道の透析分野での情報交流会として期待されます。

今回のテーマは「人工腎臓の診療報酬改定のポイントと今後の展望」として、人工腎臓に関わる7社の開発・販売の各担当者より、新しい診療改定での押さえておくポイントと、今後の人工腎臓領域での注目すべき技術に関して、説明がありました。

ランチョンセミナーでは、北彩都病院 臨床工学課 中谷隆浩先生より、道内屈指の規模を誇る施設としての、設備のこだわりや、安全対策そして、治療を滞りなく行うための取り組みについて



講演中の中谷隆浩先生

写真を交えお話ししていただきました。

各社の発表後、今回の演者を壇上に向かえて、総合討論を行い、会場からは鋭い質問も飛び出し、今後の透析診療の方向性や、解釈について時間をオーバーするほどの討論となりました。

広報 日沖

アフレスィス血液浄化 技術セミナー2018 開催

2018年11月17日（土）に札幌北楡病院講堂におきまして、アフレスィス血液浄化技術セミナー2018が開催されました。

セミナーでは技術講演が3演題企画され、ニプロ株式会社からは、「ニプロが考える持続緩徐式血液濾過器とは」、バクスター株式会社からは、「血液浄化装置プリズマフレックスとセプザイリスの展望」、株式会社カネカからは、「患者背景に応じた透析アミロイド症の治療 - リクセルの役割 -」というテーマで講演をしていただきました。最初の2社からは、持続緩徐式血液濾過器の特徴と最新の情報を説明していただき、明日からの業務にとっても役に立つ内容となっております。また、3社目の株式会社カネカからは、透析アミロイド症治療について多くのデータから説明していただき、改めてアミロイド症治療の重要性を再認識いたしました。

午後のランチョンセミナーからは、第38回日本アフレスィス学会北海道地方会となり、ランチョンセミナーでは東レ・メディカル株式会社か



会場風景



大会長の浦茂久先生

ら、「重症病態に対する急性血液浄化に関して」というテーマで講演いただきました。また、引き続いて行われました一般演題では9演題が発表され、北海道大学病院の千葉さんと社会医療法人母恋日鋼記念病院の庄司さんが優秀演題として選ばれておりました。最後の特別講演には旭化成メディカル株式会社から「血漿交換療法の保険適用疾患の現状と変更点」というテーマで講演いただき、血漿交換療法の保険適応の変更となった点をわかりやすくお話していただきました。

本セミナーは、アフレスシス血液浄化技術セミナーとアフレスシス学会北海道地方会との合同開催であり、アフレスシス技術認定士の取得単位は2倍となります。来年は、ぜひ多くの方々に参加いただき、奥の深いアフレスシスについて共に学ぶことができたら幸いです。

広報 澤崎

演されました。機器の使用目的や基本的なアラーム、バッテリー動作について、インシデント事例を交えながらわかりやすく説明し、会場からも多くの質問が寄せられていました。

講演に引き続き、座学で説明した医療機器をメーカー協力のもと会場内に設置し、実際に触れてもらうという場が設けられました。実技の場面では、各委員が担当の機器を参加者に説明し、実際に操作し間近で感じることでより理解が深まったと感じました。皆さん熱心に説明を聞いていて、日常業務で困ったことや疑問について質問が寄せられ、説明する我々も熱が入りとても充実した時間となりました。実技の時間は1時間でしたがあっという間に過ぎてしまったというのが感想でした。



会場風景

多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会開催

2018年11月25日(日)札幌医学技術福祉歯科専門学校において、一般社団法人北海道臨床衛生検査技師会主催による「多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会～知ってつながるワーカーズ～」が開催されました。

当技士会から公益事業推進委員会が中心となり参加し、橋本佳苗副会長が「知っておくべきベッドサイド機器管理」と題して輸注ポンプや、生体情報モニタ、AEDなどの医療機器について講



実技風景

今回の講習会を通じて、他職種との交流の良い機会となったと感じ、私自身も改めて連携・交流の大切さを認識しました。今後もこのような機会があればぜひ参加したいと思うような内容でした。この場をお借りして、今回お招きいただいた一般社団法人北海道臨床衛生検査技師会の皆様、講演にご協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

広報 東

◆RM ニュース◆

＜術後の輸血ミスで死亡 山形・遺族が担当医を告訴＞

山形市内の病院で2017年9月、手術を受けた市内の50代女性が術後に急死したのは、医師らが輸血の際に注意義務を怠り、肺の毛細血管を詰まらせたことが原因だとして、遺族が山形署に業務上過失致死容疑で担当医師を刑事告訴したことが17日、関係者への取材で分かった。同署は受理し、近く当事者から事情を聴く方針。

関係者の話を総合すると、女性は脊髄（背骨）の黄色靭帯（じんたい）が骨のように固まり神経などを圧迫する病気を患い、17年9月に同病院で手術を受けた。手術は6時間ほどで終了し、成功したが、その日のうちに容体が急変して死亡が確認された。

死因が判然としないため、病院が病理解剖を行った結果、微細な骨が肺の毛細血管に詰まったことによる「急性肺塞栓症」を起こして亡くなったことが判明。女性は手術後、フィルターを通して術中に出た血液を再度、自らの体内に戻す「回収血」による輸血を受けており、この中に、手術で骨の一部を削るなどした際に出た骨のかげら（骨片）が混ざっていたとみられる。

血液を回収する装置の取扱説明書には、回収血を体内に戻す場合の注意点として、微細な骨片を取り除くことができる（目の細かい）フィルターを透過させる必要がある—などと記載があった。

しかし病院側は目の粗いフィルターを通して輸血。手術や術後のケアに携わった医師らはこうした注意点を認識していなかったという。

関係者の話では、病院側は遺族に対し、輸血時のミスを認めている。遺族は、病院側が輸血時のフィルター使用に関する注意義務を怠ったことと、肺塞栓症による死亡に因果関係が認められると指摘し、医療従事者として女性が死亡する危険性があることを予測できたはずだと主張。さまざまな管理体制による医療事故だとして、刑事責任を追及するため告訴に踏み切ったとみられる。

山形新聞の取材に対し同病院は、女性が術後に死亡したことを認めた上で「外部の医師らを招いた医療事故調査委員会を設置して原因を調査し、今年9月上旬までに結果を遺族に伝えた」と説明。「現在は賠償について遺族と弁護士が協議しているが、死因などを含め現時点で話せることはない」としている。

2018年10月18日（木）配信山形新聞

＜手術で心臓を損傷、患者死亡 京都の病院、医療事故を公表

京都府内の病院では26日、心臓の手術を受けた60代後半の女性患者が死亡する医療事故があったと発表した。手術中に使用したカテーテルを引き抜く際に心臓を損傷し、意識が回復しないまま4カ月後に亡くなったという。

病院によると、患者は大動脈弁狭窄（きょうさく）症で今年6月、人工の弁に置き換える手術を実施した。心臓の機能を詳しく確認するため、首の辺りから肺動脈まで届くカテーテルを入れて手術を開始。人工心肺につなぎ、弁を置き換えた。手術後にカテーテルを動かしたところ、体内で多量に出血。すぐに開胸する手術をしたが、心臓が大きく傷ついていたという。

病院は調査委員会を設置。調査委は、手術で血管を縫合した際に肺動脈カテーテルも一緒に縫い込んでしまったと推定。一方で、「縫い込みに気付くのは難しい。類似例の発生防止のためにルールが

必要」とした。

病院長は「肺動脈カテーテルの使用に関するルールに不十分な点があり、患者さんがお亡くなりになられたことを大変重く受け止めている。患者さんのご家族に深くおわび申し上げます」と話した。

2018年11月26日(月) 配信朝日新聞

＜埋め込み型医療機器の不具合、データベース化 ICIJ＞

体内に入れる医療機器について、世界各国で報告されたリコール(回収・修理)情報や安全上の警告を、国際調査報道ジャーナリスト連合(ICIJ)がまとめた。医療機器が国境を越えて流通する一方、各国で不具合に関する情報を共有する仕組みはないとされ、事故の再発防止に役立てることが狙いだ。

朝日新聞など ICIJ と提携する計 36 カ国、59 の報道機関が、各国で 1500 以上の情報公開請求を行い、計 800 万超の記録を得た。ICIJ はこのうち、第 1 弾として米国や豪州、カナダ、インド、スペイン、メキシコ、フィンランドなど計 10 カ国から得たリコール情報や安全上の警告について、計 7 万件超をデータベース化。米東部時間 25 日正午(日本時間 26 日午前 2 時)に公開し、専用 URL (<https://medicaldevices.icij.org>) で検索できるようにしている。今後、日本の情報を加えるなど、分量を増やす方針という。

データベースの利用者は、国やメーカー、機器の名前で検索すれば、リコールや安全上の警告が得られる。同種の情報はこれまで国ごとに集約されていたが、各国で報告や公表の基準が違うため、医師や患者が他国での事例を知ることは難しかった。

ICIJ の調査では、医療機器メーカーは同じ機器を世界中で販売している。技術の進歩により高額で最新鋭の機器が開発され、使用が多く見込まれる 65 歳以上の人口も、2030 年までに世界で 10 億人に達するとされる。業界の年間売上高は 00 年の 1180 億ドル(約 13 兆円)から今年は 4 千億ドル(約 45 兆円)に増える見通しだ。

一方で、ある国でリコールや販売停止の処置が取られた機器が、別の国では売られ続け、不具合による健康被害が拡大している。ICIJ は、メーカーの対応を批判するとともに、各国政府が医師や患者に他国の情報を提供するシステムを欠いていると指摘した。

2018年11月26日(月) 配信朝日新聞

2月からの予定表

2019年2月16日(土)

「ロボット手術学術セミナー」

会場 北海道建設会館 9 階大会議室

<http://hcea.umin.ac.jp/>

2019年2月24日(日)

「第 15 回卒後教育セミナー～今一度、基礎に戻ろう！デバイス業務 PM・ICD・CRT-P D～」

会場 ムトウ本社 6F 会議室

<http://hcea.umin.ac.jp/>

2019年3月10日(日)

「手術室安全セミナー」

会場 KKR 札幌医療センター 3 階会議室

<http://hcea.umin.ac.jp/>

2019年5月18日(土)～19日(日)

「第 29 回日本臨床工学会」

会場 マリオス(盛岡市民文化ホール)ほか

<http://www.jace2019iwate.jp/>

■■ 訃報 ■■

当会外部理事の佐藤陽介先生が平成 31 年 1 月 23 日に亡くなりました。(享年 43)

佐藤陽介先生は顧問弁護士としても当会運営にご協力いただき、多大な貢献をしていただきました。

心から哀悼の意を表するとともに謹んでお知らせ申し上げます。

危機管理委員会よりお知らせ

危機管理委員会では、道臨工メーリングリストを用いて災害情報伝達訓練の実施を計画しております。災害時には、病院機能がダウンし患者や地域住民の生命に影響が及んでしまうため、被害状況について迅速に情報収集して、支援・受援体制を構築することが必要になります。このような背景から、当委員会では災害時情報共有体制構築を最優先として取り組んでいます。

平成 30 年度 北海道臨床工学技士会 災害情報伝達訓練

① 災害情報伝達訓練の目的

危機管理委員会では災害時情報共有シートを作成し、度重なる改訂を行ってきました。このシートを用いて委員による災害情報伝達訓練のプレテストを実施し、災害情報の的確な発信・収集に役立つものになったと考えております。災害対策に完全なものはないと言われておりますが、会員の皆様に災害時情報共有シート使っていただき、よりよい形にしていきたいと考えております。

<目的>

1. 技士会メーリングリストを使用した災害情報収集について確認を行い、課題を明確にする
2. 災害時情報共有シートを使用して災害時に共有すべき情報の確認と周知を行う
3. 所属施設の被害状況をリアルタイムに発信することが可能か確認する
4. 所属する施設において被害想定と対策を考えるきっかけとする

② 災害情報伝達訓練の概要

1. 日時 平成 31 年 3 月 2 日 土曜日 10:00~12:00 の任意の時間
※ 上記の時間内において、会員の皆様が都合よい時間に、北海道臨床工学技士会のメーリングリストをチェックし、災害情報を返信してください
2. 対象 北海道臨床工学技士会 メーリングリスト登録者
※ 施設に複数の登録者が在籍している場合は、予め参加者を決めていただいて、1 名のみ参加をお願い致します
3. 内容
 - 1) 訓練開始時刻に、道臨工メーリングリストを双方向発信可能となるよう、設定変更します
 - 2) 危機管理委員会より災害内容をメーリングリストに送信します
※危機管理委員会からメールを発信した時点で訓練災害が発生したこととします
 - 3) メーリングリスト登録者の皆様がメールの災害内容から、所属施設の被害内容を想像し、災害時情報共有シートに基づき、技士会メーリングリストに送信願います
※送信形式は、EXCEL データ、用紙を撮影したデータ、メール本文への入力など、任意の形式で構いません
※今回、メーリングリストは常時使用可能であった想定で訓練を行います

災害対策の構築に向け、皆様のご協力をお願い致します。

メーリングリストは、災害時のみならずセミナーや学会の案内など、会員の皆様に有益な情報を発信するためにも活用されます。

公益社団法人 北海道臨床工学技士会 ホームページ メーリングリスト から参加申し込みが可能となっております。

技士会の情報網拡充のため、是非ともご参加ください。

医療事故情報収集等事業医療安全情報

(詳細は日本医療機能評価機構のホームページをご覧ください)

医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療安全情報 No.145 2018年12月

腎機能低下患者への薬剤の常用量投与

添付文書上、腎機能が低下した患者には投与量を減量することや慎重に投与することが記載されている薬剤を常用量で投与し、患者に影響があった事例が9件報告されています。(集計期間:2014年1月1日~2018年10月31日)。この情報は、第52回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成しました。

腎機能が低下した患者には減量や慎重投与が必要な薬剤を常用量で投与し、患者に影響があった事例が報告されています。

薬効分類	投与した薬剤名	件数
抗ウイルス化学療法剤	バルトレックス錠500	4
	バラシクロビル錠500mg	
不整脈治療剤	シベノール錠100mg	1
	ビルシカイニド塩酸塩カプセル*	1
広範囲経口抗菌製剤	クラビット錠500mg	1
骨粗鬆症治療剤 (活性型ビタミンD ₃ 製剤)	エディオールカプセル0.75μg	1

※薬性は不明です。

医療事故情報収集等事業

医療安全情報 No.145 2018年12月

腎機能低下患者への薬剤の常用量投与

事例 1

医師は、夜間に外来を受診した帯状疱疹の患者にバルトレックス錠を処方することにした。病歴から患者が透析を受けていることは把握していたが、減量する必要があることを認識しておらず、通常の用法用量のバルトレックス錠500mg 1回2錠 1日3回を処方した。2日後、患者は呂律が緩機になり幻視を認めたため、入院となった。

事例 2

医師は、患者が透析を受けていることを把握しておらず、クラビット錠500mg 1回1錠 1日1回を継続して処方していた。その後、患者は嘔吐が症状が強くなり、汎血球減少を認めた。クラビット錠が原因と疑われ、内服が中止となった。

事例が発生した医療機関の取り組み

- 医師は、処方する前に患者の腎機能を把握し、患者の腎機能に応じた用量で処方する。
- 薬剤師は、腎で代謝・排泄される薬剤を調剤する際は、患者の腎機能を確認する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価委員会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の最終等の評価については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を特許または保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の減量を制約したり、医療従事者に罰金や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東神ビル
電話: 03-5217-0252(直通) FAX: 03-5217-0253(直通)
http://www.med-safe.jp/

医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療安全情報 No.146 2019年1月

酸素残量の確認不足 (第2報)

医療安全情報No.48「酸素残量の未確認」(2010年11月)で、酸素ボンベ使用中に残量がゼロになったため、患者の呼吸状態に影響があった事例を取り上げました。その後、類似の事例が9件報告されていますので再度情報提供します(集計期間:2010年10月1日~2018年11月30日)。この情報は、第44回報告書「再発・類似事例の発生状況」で取り上げた内容をもとに作成しました。

酸素ボンベ使用中に残量がゼロになった事例が報告されています。そのうち5件は、搬送時以外にも検査中や待ち時間に酸素ボンベを使用した事例です。

酸素ボンベの使用状況	件数	使用開始時の残量	酸素流量	背景	
搬送時以外にも使用	5	満タン	10L/分 ジャクソン リース	病棟からの搬入を待つ間、中央配管に酸素流量計が付いていなかったためチューブが接続できず切り替えなかった	
搬送時のみ使用	4	満タン	8L/分	検査前に約20分間の待ち時間があつたが、中央配管からの酸素投与に切り替えなかった	
		満タン	不明	検査中、中央配管へ切り替えなかった	
			8MPa	5L/分	検査中は中央配管から酸素投与されると思い、搬送には足りる量で準備したが、検査中に中央配管がなく検査中も使用した
			5~10MPa	5L/分	病室と検査室間の搬送には足りる量で準備したが、検査中も使用した(中央配管の有無は不明)

◆この医療安全情報は、医療安全情報No.48「酸素残量の未確認」の第2報です。

医療事故情報収集等事業

医療安全情報 No.146 2019年1月

酸素残量の確認不足 (第2報)

事例 1

医師は、患者の呼吸状態が悪化したため緊急で造影CT検査を指示した。看護師は、酸素ボンベが満タンであることを確認したが、酸素流量8L/分での使用可能時間を確認しないまま患者を搬送した。CT検査室の前室に到着後、中央配管からの酸素投与に切り替えなかった。約20分後、CT検査室に入室し検査準備を行っていた際、患者は下唇が青くなり、SpO₂値は90%に低下した。酸素ボンベを確認すると残量がゼロになっており、ただちに中央配管に切り替え、酸素を投与した。

事例 2

医師は、心臓超音波検査を指示した。看護師は、酸素ボンベの残量が8MPa、酸素流量5L/分での使用可能時間を確認し、病室と検査室間の搬送には十分足りると考え準備した。看護助手が患者を搬送した検査室には中央配管がなかった。臨床検査技師は、酸素ボンベを使用しながら検査を開始し、検査中に残量がゼロになっていることに気付かなかった。検査終了後、看護師と看護助手が検査室に行くとき、患者の顔色は不良で呼吸反応がなかった。酸素ボンベを確認すると、残量がゼロになっていた。

事例が発生した医療機関の取り組み

- 酸素ボンベの使用は搬送時のみとして、中央配管がある場所ではすみやかに切り替える。
- 酸素ボンベ使用中は、引き継ぎ時、検査中、検査終了時などに酸素の残量を確認する。
- 患者の検査時は、酸素投与量と患者の状態に応じて医師や看護師が付き添う。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価委員会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の最終等の評価については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を特許または保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の減量を制約したり、医療従事者に罰金や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東神ビル
電話: 03-5217-0252(直通) FAX: 03-5217-0253(直通)
http://www.med-safe.jp/

頑張れ！フレッジャーズ

このコーナーは、2017年度の卒業生で北海道臨床工学技士会より表彰を受けた道内臨床工学技士養成校の卒業生に、現在の状況や今後の抱負など熱い思いを語ってもらうコーナーです。

今回は、2018年3月に北海道科学大学を卒業し現在、社会医療法人 北海道循環器病院にて勤務中の慶伊由梨さんです。



北海道循環器病院

慶伊 由梨 さん

私は2018年3月に北海道科学大学 保健医療学部 臨床工学科を卒業し、4月から社会医療法人北海道循環器病院に務めています。入職から9か月が経ちましたが、当時と変わらない緊張感のもと、日々の業務に当たっています。

私は臨床工学技士として入職致しましたが、将来的に器械出し業務を中心に行うため、看護部所属の中材・手術室に所属しております。入職してからの約4か月は、開心術や血管内レーザー焼灼術の外回り業務、経食道心エコーの受け持ち業務に携わりました。また、末梢血管の器械出しも4回ほど経験させて頂きました。現在は土曜日勤務のやり直しに向け、滅菌物の取り扱いを行う中材業務を中心に行っております。

手術室では出会う症例の種類と、手術を行う日の予測ができないため、何時手術が入ってもいいように日頃から準備するような形で学習してい

ました。特に自分は一つの業務を一つずつ習得していく要領の悪さがあるため、上記で述べた各業務全てを並行して覚えなければいけない時は、時間が掛かってしまいました。限られた時間の中でどう学べば良いのか悩む中、先輩看護師さんから一度の手術で、できるだけ多くの内容を吸収するような視点を持って入る事を教えて頂きました。術式の流れや、外回りとしての仕事、後に携わる器械出しの手技の観察など、業務を行いながら見るべき要点を指導して頂き、現在もまだまだ未熟ではありますが、精進を心掛け頑張らせて頂いております。

実際に業務を行う中で、学生時代に得た臨床工学としての知識や目線に加え、看護の目線で患者さんについて考える事や、対応させて頂く事が多く、循環器に関する解剖や薬品名の知識不足を痛感しました。入職してから学習したことを書きためていたB6のメモ帳は、厚さ4.5センチになり持ち運ぶには重くなりましたが、この重さがいつか身を結ぶと信じ、学ぶ事を止めず、患者様の安心・安全を守れるような医療人になりたいと考えております。



《学会誌電子ジャーナル無料閲覧サービスご案内》

「北海道臨床工学技士会誌」に掲載された過去の論文を電子化し株式会社メテオが提供する文献検索サイト、メディカルオンラインで閲覧することが可能です。

◎2018年度アカウントについて(2019年3月末日まで有効)

学会様専用 ID : 1100007199-03

パスワード : 2wm4c6ix

貴会雑誌名① : 北海道臨床工学技士会誌

貴会雑誌 URL : <http://mol.medicalonline.jp/archive/select?jo=ey2rinsy>

雑誌 URL へ接続しますと、北海道臨床工学技士会誌のアーカイブ画面へ遷移します。

画面右側の会員認証欄に上記 ID/PW を入力後、会誌の閲覧が可能となります。

AsahiKASEI

ABH Series

- 実績のあるポリスルホン膜を採用
- 優れた生体適合性及び抗血栓性



血液透析濾過器
旭中空系型ヘモダイヤフィルター
ABH-F
中空系内径の拡大により、
血液側圧力損失を低減。
高度管理医療機器
承認番号 22000BZX00490000

血液透析濾過器
旭中空系型血液透析濾過器ABH-PA
ABH-PA
中空系と容器設計の最適化。
2.6m²まで幅広い膜面積のラインナップ。
高度管理医療機器
承認番号 22900BZX00045000

旭化成メディカル株式会社

<http://www.asahikasei-medical.co.jp>

No.2017-5-1790



高リン血症治療剤

処方箋医薬品^注 注)注意-医師等の処方箋により使用すること。

薬価基準収載



ピートル[®] チュアブル錠 250mg 500mg

P-TOL[®] Chewable Tab.

スクロオキシ水酸化鉄(sucroferic oxyhydroxide)チュアブル錠

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 キッセイ薬品工業株式会社

松本市芳野 19 番 48 号 <http://www.kissei.co.jp>
<資料請求先> <すり相談センター 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号
TEL 03-3279-2304 フリーダイヤル 0120-007-622

PT3012KD
2017年1月作成

JIMRO

Adacolumn[®] アダカラム[®] (保険適用)

血球細胞除去用浄化器

特徴

- アダカラムは、活動期潰瘍性大腸炎および活動期クローン病の寛解を促進、症状を改善する治療用医療機器です。
- 全身治療を必要とする膿毒性乾癬に対する効能が認められています。
- アダカラムは、末梢血中の顆粒球および単球を選択的に吸着する、体外循環用カラムです。
- 治療時間は一般的な体外循環療法と比べて短く、60分程度です。

「使用目的又は効果」、「禁忌・禁止」、「使用上の注意」等については、最新の添付文書をご参照下さい。



CE 0123

医療機器承認番号:
21100BZZ00687000

AD20180522v04A
AD18E171

●資料請求先 株式会社 JIMRO 学術部

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル TEL:0120-677-170 (フリーダイヤル) FAX:03-3469-9352 URL:<http://www.jimro.co.jp>

Johodai

進化する情報大で、未来を拓こう。



あなたを大切に育てる e 環境
北海道情報大学

〒069-8585 北海道江別市西野幌5-2 TEL 011-385-4411 (代表)

お問い合わせは [広報室] ☎ 0120-83-4411

北海道情報大学 オープンキャンパス
www.do-johodai.ac.jp/ 検索 参加申込みQRコード

- 経営情報学部
- 先端経営学科 ●デジタルビジネス専攻
 - システム情報学科 ●システム情報専攻
 - 宇宙情報専攻
- 医療情報学部
- 医療情報学科 ●診療情報管理専攻
 - 臨床工学専攻
- 情報メディア学部
- 情報メディア学科 ●メディアデザイン専攻
 - メディアテクノロジー専攻



臨床工学技士コースのスタートに合わせ
最新環境の「臨床工学実習室」誕生!



- 「人工透析室」エリア
- 「手術室」エリア
- 「ICU (集中治療室)」エリア
- 「救急救命」エリア
- 「心臓カテーテル室」エリア
- 「臨床検査」エリア



SafeTech® セーフテック®輸液ポンプ FP-N11

安全と使いやすさを、その先へ

「クランプリング®システム」 「3Dプレス®方式」 カラー大画面を採用

医療機器分類:高度管理医療機器(クラスⅢ)、特定保守管理医療機器 医療機器承認番号:22600BZX0005000 一般的名称:汎用輸液ポンプ

問い合わせ先 **NIPRO** 発売 ニプロ株式会社 大阪市北区本庄西3丁目9番3号

NORITSU PRECISION 製造販売 ノーリツプレジジョン株式会社 和歌山市梅原579-1
2017年5月作成

あなたの勇気で救える命 ~AED(自動体外式除細動器)~

AED(自動体外式除細動器)は、音声ガイダンス指示に従うだけで、初めての人にも簡単に使えるように設計されています。駅構内、学校、病院、社会福祉法人、商業施設など様々な場所にAEDは設置されております。もしもの時の救える命のために、AEDをご検討の方はお気軽にお問い合わせ下さい。



最新医療機器と最新知識の提供を目指す

株式会社アクティブメディカル 代表取締役 山田 誠

〈本社〉〒113-0024 東京都文京区西片1丁目15番15号KDX春日ビル5階

TEL 03-5842-3015 FAX 03-5842-3016

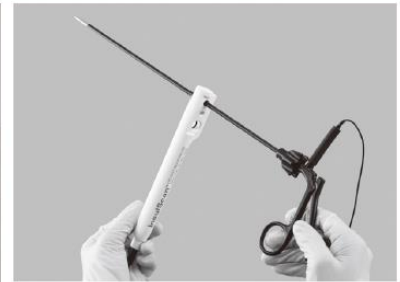
〈支店〉西東京/横浜/千葉/埼玉/札幌/旭川/帯広/室蘭/釧路 URL <http://www.actg.co.jp/medical/>



鉗子絶縁不良検知器

InsulScan™

- 持ち運び可能なポータブルタイプ
- 充電式バッテリー駆動
- 3mm、5mm及び10mm径鉗子に対応



株式会社 **アムコ** www.amco.co.jp
本社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-9-7 TEL. 03 (3265) 4263 FAX. 03 (3265) 2796

TORAY

Innovation by Chemistry

生体適合性を追求した
モイストタイプ ヘモダイアフィルター。



トレライト®HDF NVF

販売名:トレライト®HDF
一般的名称:血液透析濾過器
医療機器承認番号:22800BZX00367000
医療機器区分:高度管理医療機器

販売業者 **東レ・メディカル株式会社** <http://www.toray-medical.com/>
製造販売業者 **東レ株式会社**

JMSレーザ血流計 ポケットLDF POCKET LDF

いつでも手軽に、正確な測定を

レーザ血流計は、非観血的に人体組織(皮膚表面)下の微小循環(細動脈、細静脈、毛細血管)の皮膚灌流(血流量)を計測するものです。

製造販売業者
株式会社 ジェイ・エム・エス <http://www.jms.cc/>



- 非侵襲的** 手の指先、耳朶、皮膚表面などで測定可能
- 小型** 手のひらサイズ
- 無線** Bluetooth搭載



人と医療のあいだに...

販売名:ポケットLDF 管理医療機器/特定保守管理医療機器
医療機器承認番号:22600BZX00424000

お問い合わせ先 TEL 03-6404-0602

〒140-0013 東京都品川区南大井1丁目13番5号 新南大井ビル

2017.05.JMS

医療機器・理化学機器・福祉機器

WISM 株式会社 ムトウ

取扱品目 医療機器・理化学機器・ME 機器・病院設備・放射線機器・メディカルコンピューター
貿易業務・歯科機器・福祉機器・介護用品

代表取締役社長 田尾延幸

札幌本社(北海道事業本部) / 札幌市北区北11条西4丁目1番15号・☎(011)746-5111

針刺し防止機能付き止血弁内蔵透析用留置針

Happycath C-PRO

- フルカバータイプのセーフティ機能
- 多数回弁の採用により、
圧迫止血や鉗子を用いたクランプ操作が不要



メディキット株式会社

発売元: メディキット株式会社 〒113-0034 東京都文京区雑司 1-13-2 TEL.03-3839-0201
製造販売元: 東野メディキット株式会社 〒883-0062 宮崎県日向市大字日知屋字亀川 17148-8 TEL.0982-53-8000
<http://www.medikit.co.jp/> <http://www.togomedikit.co.jp/>

医療機器承認番号: 21400BZZ00343000 販売名: ハッピーキャスV

経験と実績から生まれたME機器管理システム

HCSMA Version 7

Hospital Management System



WEBアプリケーション フルモデルチェンジ

位置情報検知システム

HOSBE



位置情報検知システムは、Beaconから送信されるBLE (Bluetooth Low Energy) の電波をレシーバーで受信することで位置情報を把握するシステムです。

株式会社ムトウテクノス 札幌市中央区北2条西17丁目1-2 TEL:011-644-6100 FAX:011-644-6101



いのちに携わる
責任と使命



日機装株式会社 本社 〒150-6022 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 TEL.03-3443-3751 FAX.03-3473-4965

北海道臨床工学技士会ニュース

広報担当	旭川リハビリテーション病院	臨床機器管理課	木村吉治
	北農会 恵み野病院	臨床工学科	日沖一木
編集委員	旭川赤十字病院	臨床工学課	奥山幸典
	旭川医療センター	診療統括部	本手 賢
	旭川医科大学病院	診療技術部	南谷克明

印刷

株式会社 プリントパック

<http://www.printpac.co.jp/>